

大同 元	八〇六	磐梯山破裂、月輪・更科の二荘水没、洪水同三年まで続く。	
貞観 元	八五九	陸奥国洪水あり、民大いに苦しむ。	会津に關しては不明
応永二六 一四一九	七、二八	陸奥、東海の地洪水あり、民大いに飢う。黒河川今より羽黒下押切り、鶴沼川という。黒川もと鶴ガ城北にあり、今秋城南に移す。	塔寺長帳会津旧事雜考
三一 一四二四	一、二	大水増	塔寺長帳
三三 一四二六	九、八、六、三	洪水黒川、赤沢川まで達し、田地皆損すと。	会津旧事雜考
三四 一四二七	八、八、二、七、四	洪水、人民多く死失す。	塔寺長帳
永享 元 一四二九	六、九	会津大洪水	
文安 四 一四四七	七、二五	洪水、大風雨、塔寺八幡宮の華表倒れる。	
享徳 元 一四五二		洪水	塔寺長帳
永正二 一五一六	六、二、三〇	六月大水増で家・馬・人流され、耕作のこと申すに及ばず。十二月三十日洪水。	塔寺長帳
一五 一五一八	七、一四	洪水、七月十四日大水、坂下の薬師堂の柱半分まで水つく。	塔寺長帳
犬永 三 一五二三	五、一九	洪水	塔寺長帳
享録 三 一五三〇	一〇、一	出水、町へ入る。	塔寺長帳
天文 五 一五三六	六、二八	会津大洪水、白鬚の水という。塔寺坂下間水深八尺余、蟹川佐野村を経て日橋川に合す。大川という。岩崎山より橋爪村に至る二里埋没陸地になる。	塔寺長帳
一九 一五五〇	八、三	夜洪水、人死す。	塔寺長帳
永録 三 一五六〇		会津大洪水	塔寺長帳